

しまねの観光振興に関する

観光振興検討部会 政策提言

I はじめに

観光は、旅行業や宿泊業など、一次産業・二次産業から三次産業まで関わるすそ野の広い産業であり、消費の増加や雇用の創出など、地域全体に大きな経済効果をもたらす原動力となり得る基幹産業として期待されている。

また、観光振興の取り組みは、県民自らが、古くから伝わる地域の文化・歴史や、豊かな自然を通して、郷土の素晴らしさを再認識し、ふるさとを誇りに思う気持ちの醸成にもつながり、ひいては、観光客が再び「しまね」に来たいと感じていただける環境づくりにも寄与すると考える。

II 島根の観光の現状・課題

島根県への観光来訪者は、60年ぶりとなる出雲大社「平成の大遷宮」が、伊勢神宮の式年遷宮の年と重なったこともあり、出雲大社本殿遷座祭が執り行われた5月以降も出雲大社周辺には、全国から多くの観光客が訪れている。

県においては、平成22年度から25年度にかけて「神々の国しまね」プロジェクトを実施し、誘客対策、地域資源を活用した観光商品づくり、おもてなし機運の醸成などに取り組んでいる。

さらに、今年度から、首都圏の20代から40代の女性をターゲットとした「ご縁の国しまね」キャンペーンをスタートさせるなど、観光面での認知度向上と誘客の取り組みを積極的に進めている。

こうした全県を挙げての取り組みにより、島根県の観光客は、昨年秋頃から今年にかけて大幅に増加している。

このような中、石見地域においては、本年7月・8月の大雨災害により、観光面においても大きな影響を受けたが、関係者の懸命な努力により、温泉街での神楽公演の再開や、運休中であった山口線のSLの一部区間での運行、地元の食を活用した誘客の取

り組みなど、本格的な回復に向けた動きが加速している。

また、隠岐地域においては、念願であった隠岐ジオパークが世界認定され、地元の観光関係者を中心とした観光キャラバンが、山陽・四国方面でPR活動を実施するなど、来春の観光シーズン到来を前に、積極的に誘客活動を進められることとなっており、各圏域の資源を活かした観光振興の取り組みが進展しつつある。

一方、本県を訪れる外国人観光客については、観光庁の統計調査によると、平成24年の外国人延べ宿泊数は、約1万8千人で全国最下位であり、今後、一層の外国人観光客誘客の促進や受入体制の整備を進める必要がある。

また、企業等が行う研修旅行や、団体・学会等が主催する総会は、多くの集客や交流が見込まれるビジネスイベントであり、観光面でも大きな消費効果を生み出すことが期待されることから今後の誘致の取り組みを強化することが必要である。

こうした、新たな旅行需要の掘り起こしにより、観光入込客の増加を図る視点も必要と考える。

現在、旅行業界においては、出雲を中心とした山陰向けの旅行商品の販売実績が好調であり、来年上期以降も当地域を重点送客先として設定する意向を持つ旅行業者も少なくないと聞いている。

観光客の誘致をめぐるっては、地域間競争も激化しており、ターゲットを明確にした誘客対策や、観光地づくりに取り組む組織・人材の育成、地域の魅力づくりに対する支援等、今後も、国内外から島根への関心が継続するよう、切れ目のない取り組みを推し進めていくことが極めて重要である。

観光立県「しまね」の実現並びに「島根総合発展計画」に掲げる島根の将来像『豊かな自然、文化、歴史の中で、県民誰もが誇りと自信を持てる、活力ある島根』を目指し、次の点について提言を行う。

Ⅲ 政策提言

1. 「しまね」ならではの観光素材を活かした観光振興の推進について

- 出雲大社の遷宮効果による観光客の大幅な増加や、「神々の国しまねプロジェクト」等による観光振興の取り組みの効果が一過性のものにならないよう、「ご縁」や「神々」といった島根ならではの観光素材を活かした誘客の取り組みや、観光地づくりの支援、情報発信の強化・拡充など、総合的な観光振興施策を行うこと。
- 施策の実施にあたっては、特に以下の点について考慮すること。
 - ・「ご縁の国しまね」キャンペーンの拡充や口コミの活用等による情報発信の強化
 - ・出雲、石見、隠岐など各圏域の伝統や歴史・文化、自然等を活かした地域の主体的な取り組みに対する支援
 - ・シニア層や若年層など、世代のニーズに合わせ、ターゲットを絞った旅行商品造成の促進

2. 外国人観光客の誘致の推進について

- 誘客目標とする人数の設定や、外国人観光客のニーズや市場動向を的確に把握した効果的なプロモーションの実施など、戦略的な誘客の取り組みを推進すること。
- インターネットを活用した情報発信や、Wi-Fiスポットの整備、外国語に対応したサイン表示やガイドの育成など、外国人が快適に旅行できるような受け入れ体制の整備を促進すること。

3. MICEの誘致・開催の促進について

- Meeting（企業等の会議）、Incentive（企業等が行う報奨・研修旅行）、Convention（団体、学会等が主催する総会、学会等）、Event/Exhibition（イベント、展示会）は、多くの集客・交流が見込まれるビジネスイベントであり、会議開催、宿泊、飲食、観光等により、大きな経済効果を生み出すことが期待される。また、国際会議の誘

致を促進することにより外国人観光客の誘致にもつながると考えられる。

- こうした点に着目し、コンベンション誘致を推進している関係機関等との連携を図りながら、企業等が行う会議や研修旅行・国際会議等の誘致や、開催の支援を積極的に推進すること。

4. 観光振興推進体制の充実について

- 地域の魅力づくりを担う市町村観光協会や観光事業者、観光連盟、県の組織など、「しまね」を魅力的な観光立県として確立していくための観光振興推進体制の充実・強化を図ること。

5. 交通渋滞緩和による観光客の周遊利便性の向上について

- 尾道松江線や山陰道など高速道路の整備に伴い、自家用車やバスを利用して来県する観光客が増えており、特に出雲大社周辺では、休日等を中心に大きな渋滞が発生している。こうした交通渋滞は、観光客の旅行計画や他地域への周遊に支障をきたし、「しまね」の観光のイメージダウンにつながりかねない。
- 観光客が、より快適に島根の旅行を楽しんでいただけるよう、適切な案内・誘導の実施や駐車場の確保など、交通渋滞対策について関係機関と一緒に緊急かつ速やかな対策を講ずること。

平成25年12月13日

自由民主党島根県議会議員連盟
会 長 洲 浜 繁 達
同政策審議会
会 長 中 村 芳 信
同政策審議会観光振興検討部会
部会長 園 山 繁

島根県知事 溝 口 善 兵 衛 様